

横浜市小学校社会科研究会

4 学年部会

研修会記録

第 8 号

令和 2年 1月 21日

横浜市小学校教育研究会

会長 榮 秀 之

横浜市小学校社会科研究会

会長 新 井 篤 志

同 学年部長 岩 羽 純 一

【提案日時】

1月 8日 (水)

提案 金井 伸一 先生 (鴨志田緑小)

生方 直樹 先生 (滝頭小)

【会 場】

横浜市立丸山台小学校

司会 藤田 秀悟 先生 (田奈小)

記録 日下 里子 先生 (大岡小)

< 広田実践の分析提案 >

【視点①】

◎子どもの驚きや意外性が生まれるように、導入で事実をしっかり捉えさせたこと

◎子どもたちの社会事象への興味関心を高めるための環境づくり

【視点②】

◎子どもたちのこれまで捉えてきた認識とのズレが生じる事実の提示

△子どもたちのつぶやきや発言をより広げたり、深めたりする教師の出

△学習問題後の学習問題を追究するための活動の多さ

△中心資料の価値や意味

⇒学習問題の成立をはやめの段階でしてから、これまでの学習を根拠に話し合う。

< 田川実践の分析提案 >

【視点①】

◎子どもが連続的な学びの視点をもっていたこと

◎共通の土台をつくる体験的な学習を行ったこと

【視点②】

◎材の意味を価値づける問い返し

△事象 (箱根町) と事象 (箱根細工) を関連付ける問い返し

△資料提示のタイミング

⇒資料提示後じっくりと見る時間を確保する

< 部会協議、報告 >

【広田実践】

・子どもたちにとって遠い場所の材を身近に感じさせるために、動画を繰り返し流したり、実際に使っている衣装 (虎) を借りてきたりと、工夫がされていた。

・町内会の工夫を調べて、事実を重ねてから本時でもよかったのではないかと。

- ・子どもの意見を、根拠となる事実で書き分けて板書できると分かりやすかった。
- ・本時のねらいに近づくつづきやきが子どもから出ていたが、授業者が気付いていなかった。⇒そこを拾っていけると、展開がスムーズになった。
- ・中村の虎踊りが町の人でないとだめな理由は、町の発展を願っているから。そこをもっとしっかりおさえたかった。
- ・学習問題をポジティブな言葉で成立させるとよかった。
⇒そうすれば、子どもたちの考え方もポジティブなものになった。

【田川実践】

- ・こだわりのある子の発言を生かせるように考えられた授業であった。
- ・「協力すればいいんじゃないか」という発言があった場面で、「だれが？」と問い返しをすることで、まちと寄木細工の関わりに近づけたかもしれない。
- ・子どもが資料を欲しているタイミングを見極めて、資料を提示する必要があった。
- ・鎌倉は、行政が関わっているのでまちづくりを考えることができるが、寄木細工からまちづくりを考えるのは難しい。指導要領の読み方について確認が必要。

<学年のまとめ>

【視点①】

- ◎身近な事象からの導入 あるいは 身近にするための工夫
- ◎ふりかえりに多角的な内容が見られるようになったこと
- △単元を見通す学習問題づくりは進んだが、成立した後の活用について考えていく必要があること
- △単元を見通す学習問題に対する振り返りのもち方

【視点②】

- ◎ズレから本気の学習問題を成立させる流れ
- △子どもの思考を深める、整理する資料作り
- △何のために問い返すのかという教師の狙い（問い返し後の展開の深まり）

<梅田先生から>

- ・指導要領の読み方を共通理解、共有していく必要がある
(例) ○○や△△ ⇒ and など
- ・全小社に向けて、展開や振り返りのタイミングなどを協力して考えていきたい

<世話人校長先生より>

1年を通して、分かりやすく進めていた。水等の生活を生かした単元の展開がよかった。逆に授業研の単元はそこで苦労されていた。型、流れはできてきている。何に気付かせたいかを更に考えていく必要がある。本時までの取組が、本時に出てきているよい実践だった。